

令和4年9月

魚津市定例記者会見



日時：令和4年8月30日(火) 午前11時00分～午後0時05分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、NHK、北日本放送、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、総務部長、財政課長、情報広報課長

1. 市長からの発表事項

(1) 9月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容と令和2年度決算の状況

- ・9月補正予算の内容としてはコロナ対策や物価等高騰対策など。規模は総額5億1,700万円余り。主な歳出項目としては、大きく分けてコロナ対策は9,100万円余り、物価等高騰対策は7,700万円余り、それ以外は3億4,800万円余りとなる。財源的には地方交付税の精算額や国庫支出金、寄附金、前年度からの繰越金が大勢を占める。
- ・テレワーク・ワーケーション施設整備事業は、Wi-Fi環境が整備されているミラージュハウスを、さらに快適で働きやすいテレワーク・ワーケーション施設となるよう整備を行うもの。内装・電気設備工事や椅子・テーブル等を整備する。
- ・子どもインフルエンザ予防接種助成事業については、市内在住の小中学生約2,700人が助成対象。助成金額は1回の接種につき上限3,000円（小学生2回まで、中学生は1回）なお、未就学児は、県の助成事業による対応となる。
- ・MiraPayポイント還元事業については、物価等高騰の影響を受けている小規模小売店の販売促進を図るため実施するもの。MiraPayコインでお支払いすると、最大30%のポイントが還元される。還元率はMiraPayアプリ利用者が30%還元（上限6,000ポイント）でMiraPayカード利用者については15%還元（上限3,000ポイント）となる。期間については、還元対象期間が令和4年11月～12月末まで、ポイント利用期間が令和4年12月中旬～令和5年2月末となる。経済効果の額は1億円～2億円の間となる（額はカード型とアプリの利用割合により変動する）。なお、

予算がなくなり次第終了の予定。8月23日現在、アプリ登録者が4,100人、カードの配布数が22,000枚、登録店舗数が212店舗となっている。

- ・魚津の宿泊割引事業（魚旅キャンペーン）については、事業を拡充して実施する。特に落ち込みの大きい冬季（宿泊閑散期）の宿泊利用者と観光消費の底上げを図る。9,000円相当のミラペイ（宿泊6,000円分＋観光3,000円分）を3,000円で販売する。ちなみに、今年度上半期の事業内容は宿泊5,000円分＋観光2,000円分を3,000円で販売だった。販売数は延べ6,000人分。申込方法は専用HP、郵送、FAXから。先着順で1人2枚まで購入可となっている。引換販売は11月上旬から2月28日まで魚津駅前観光案内所または対象宿泊施設行う。使用期限も2月28日まで。
- ・社会福祉施設、児童福祉施設、病院に対する物価等高騰対策支援事業は、今回の補正における物価対策の目玉である。食料品や燃料費の高騰の影響を大きく受けている市内の障害・介護関連事業所、私立認定こども園及び病院の負担軽減を図るため支援を行う。補正額は5,000万円余り。支援対象期間は年度当初に遡って令和4年4月分から令和5年3月分まで。12月ごろに支払いを行う予定。
- ・公衆浴場燃料価格高騰対策事業については、燃料価格高騰の影響を大きく受けている公衆浴場事業者（3事業者）の負担を軽減するため、燃料価格の高騰分の2/3を支援するもの。富山県の補助制度（補助率1/3）を踏まえ実施する。
- ・漁業燃料価格高騰対策支援事業については、燃料価格高騰の影響を大きく受けている漁業者の負担を軽減するため、燃料価格の高騰分に対して支援を行うもの。対象者は魚津漁業協同組合及び富山県鮭鱒漁業協同組合の組合員のうち、魚津市内に住所を有する方。補助金額は、令和4年1～12月に使用した燃料数量に対して、燃料価格高騰分の1/4相当額。事業費は980万円。
- ・公共交通等燃料価格高騰対策支援事業については、燃料価格高騰の影響を受けながらも運行を継続する交通事業者に対し、県及び沿線市町村と協調して支援を行うもの。補助率は、鉄道とバスは燃料経費の差額の1/2。タクシーは1台あたり3,000円/月を支援する。
- ・給食費に対する物価等高騰対策支援事業については、6月補正の拡充となる。学校給食にかかる食材等の価格が高騰しているため年間必要額を計上して支援する。今回の補正（拡充）額は800万円余りとなっている。

- ・マイナンバーカード普及促進事業については、申請・受付業務の一部を民間委託のうえ、土日祝日にショッピングセンターや公民館など出張し、交付申請を受け付ける。実施期間は11月から3月末まで。ちなみに魚津市のマイナンバーカード申請率は、7月末現在で申請率52.49%、交付率45.28%となっており県内市町村の中でも高い方では無い。
- ・野菜集出荷場再編整備事業は、魚津市農業協同組合の2か所の野菜集出荷施設のうち、加積野菜集出荷場内の保冷库が耐用年数を経過し、誤作動による支障が発生しているため、有山野菜集出荷場に出荷施設を集約するため、新たに保冷库（5坪）を設置するもの。
- ・みらパーク賑わい創出事業については、市制70周年記念事業としてみらパーク（魚津総合公園）において各種記念イベントを開催しているが、今回、明治安田生命からの寄附金を活用し、みらパークの賑わいづくりのため、新たなイベント「UOZU Mira Santa Run」を追加実施するもの。サンタクロースの衣装を身にまとい、参加者全員で楽しくランニングやウォーキングを実施する。
- ・ふるさと教育推進事業については、小・中学校で取り組んでいる「ふるさと教育」の映像制作と魚津の偉人紹介映像制作に取り組むもの。星の杜小学校にある“ふるさと先人ミュージアム”での放映や、「ふるさと教育」の現場において活用していく。事業費は500万円あまり。なおこの事業は、今年の4月に名誉市民の中尾哲雄さんからふるさと教育推進のためにご寄附いただいた1千万円を活用している。
- ・プログラミング教育推進事業（UOZU DRONE PROGRAMING CHALLENGE 2022）については、ドローンのプログラミング要素を取り入れた小学生向けの講習会及び大会を行うもの。魚津埋没林博物館で12月18日に開催される e-sports 大会と同時開催される。イベントの委託先は一般社団法人F A P。大学生や高専生に講師として参加してもらう予定。
- ・指定文化財・伝統芸能保存継承事業については、地域に伝わる伝統芸能の安定的な開催と保存継承が危ぶまれていることから支援を行うもの。たてもん保存会へはたてもん真柱交換経費などに300万円余りを支援し、せり込み蝶六保存会へは法被や太鼓等の新調経費として70万円余りを支援する。また、各地区の伝統芸能保存団体等（28団体を見込んでいる）へ合計140万円余りの支援を行う予定。なお事業費の570万円は、市制施行70周年記念事業を展開していくうえで、市内の企業のみなさんから特別協賛金としていただいた多額の寄附金を財源としている。

- ・子ども向け運動施設整備事業は、ありそドームにある子供の遊び場「キッズベース」のエリア拡充や新しい遊具の設置をすることで、多くの子ども連れが楽しめる憩いの場を創出するもの。

(2) 令和3年度決算の状況について・魚津市財政健全化計画の目標達成について

- ・令和3年度の実質収支は18.0億円の黒字。要因として大きいものは固定資産税等市税収入の大幅増、大雪等による特別交付税の増などがあった。実質収支18.0億円の使途については、財政健全化計画の目標達成に向けての財政調整基金への積立（2.0億円）を9月補正予算に計上する予定。これにより財政健全化計画の目標を2年前倒しで達成できる見込みとなった。しかし今年度において、これからさらなる新型コロナ対策や物価等高騰対策、除雪等災害対策などが必要となった場合はそちらを優先する。
- ・財政健全化計画における目標は大きく2つ、その年度の歳出をその年度の歳入でまかなう（基金の取り崩しをしない）ことと、万が一の危機に対応するため10億円超の財政調整基金を持っていたいので、まずはそこを目指すことだった。その2つの目標が達成できる見通しとなった。

(3) 魚津水族館フォーラムを開催します

- ・9月3日(土)の午後に新川文化ホールで開催する。入場料は無料。内容としては、まず基調講演として江ノ島マリココーポレーションの展示飼育統括ゼネラルキュレーターをしておられる大山卓司さんに「世界の水族館、魚津の水族館～新しい時代に向けた水族館のあり方を考える～」というテーマで講演をしていただく。その後は、水族館学芸員による意見発表、水族館サポーターの小学生による活動発表が行われる。後半は私（市長）も参加するパネルディスカッションが行われる。これからの水族館についてのビジョンを語り合えればと思っている。

(4) 魚津市とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社との地方創生に関する連携協定を締結します

- ・9月20日(火)の14時から市役所において、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と協定を締結する運びとなった。同社は交通安全対策の推進に力を入れておられ、魚津市との取り組みにおいても同社のテレマティクス技術を利用した交通安全のイベントを開催する予定。

- (5) 令和4年度 魚津市総合防災訓練を開催します
- ・ 9月4日(日)の午前中に下中島地区の星の杜小学校をメイン会場、市内西部地域の各地区をサテライト会場として実施する。
 - ・ 今回の訓練の特徴は、市長が不在のためリモートで参加することを想定した、テレビ会議システム等を活用した情報共有訓練。総務省北陸総合通信局と新川コミュニティ放送による臨時災害放送局の立ち上げと臨時ラジオ放送の訓練。ソフトバンク株式会社の協力のもと、小学生を対象とした、人型ロボット「Pepper」による防災教室の開催。市建設課によるドローンのデモフライト。立山砂防事務所による土石流体験3Dシアターの上映など。
- (6) MiraPay チャージチケット付きUO！トク！商品券を販売します
- ・ 魚津商工会議所が発行するプレミアム率20%の「UO！トク！商品券」と連携して、商品券1冊につき「MiraPay チャージチケット (500コイン)」1枚を付帯させる。商品券はお一人様あたり2冊まで購入可。販売日時は9月4日(日)の9:00～16:00まで。売れ残った場合は、翌日より魚津商工会議所で販売。
 - ・ 商品券と引き換えるのはチャージできるチケットのため、チケットのままではMiraPay 加盟店で利用できない。
- (7) 魚津市新庁舎整備検討委員会の市民委員を募集します
- ・ 現在の市庁舎は昭和42年10月の稼働から50年以上が経過し、老朽化が進行していることから、市議会でも答弁した通り、新庁舎の整備を令和11年度中に完了することを目指している。そこで各団体の代表者等からなる「魚津市新庁舎整備検討委員会」を設置する予定としている。市民の皆様とともに新しい庁舎について議論を進め、市民目線でのご意見やアイデアを取り入れた庁舎にしていくため、積極的な市民参加を期待している。
 - ・ 募集人数は2名程度。応募期間は9月1日～22日まで。第1回魚津市新庁舎整備検討委員会の開催は、10月20日の午後を予定している。
- (8) 「プログラミングコンテスト ミラたんカップ」を開催します
- ・ 9月3日(土)にありそドーム産業展示ホールで開催予定。子供たちが自分でプログラミングしたロボットを使い、ボーリングのように倒したピンの本数、クリアしたミッションの数で点数を競うコンテスト。当日は移動販売車も来場し、お祭りの雰囲気を楽しめると思われる。
 - ・ 市内の小学生を対象としているが、いきなりプログラミングは出来ないので、夏休み期間中から民間のプログラミング教室で練習を行っている。

(9) SAUNA mirage (サウナ・ミラージュ) を開催します

- ・ミラージュプールに新川地区初上陸の「バレルサウナ」や「テントサウナ」を設置するイベント。サウナ後のために、井戸水の冷たい水風呂と海水プールも用意している。運営主体は魚津総合公園の賑わい創出に取り組んでいる NAPs。9月3日(土)・4日(日)にそれぞれ各3回実施の予定。

(10) 魚津の農林水産業 体験・応援プロジェクト

- ・9月は、うおづの田んぼ親子体験会～米づくりについて学ぼう～の第2回を東山田筒分水槽前の東山地内圃場で開催する。5月に手植した稲の刈取り作業を体験する予定。

2. 質疑応答の内容

「魚津市財政健全化計画の目標を達成したこと」について

《記者からの質問》

現在の財政健全化計画の策定期間は、財政調整基金に10億円を積むことができた事で一応の健全化は達成したと言ってよいか。目標を前倒して達成したことにより次の新しい計画で新庁舎の整備（建て替え）を目指すのか。また策定期間はどのように設定するのか。

《回答》（市長）

現在の財政健全化計画は令和元年12月に策定し、期間は令和2年度から6年度末までだった。当時立てた2つの目標を達成したので、その意味では財政健全化は達成したと言える。しかしそれで十分かという点、学校統合をした後の旧校舎が残っていたり今後の課題がある。できるだけ早く解決するためには、少しでも財政的な体力を保持してやっていく必要がある。その意味では十分だとは思っていない。未来に向けた仕事をするためにスタート地点に立ったと思っている。

市庁舎整備は非常に大きなプロジェクトである。実現に向けて財政フレーム（財政計画）上に示す必要があるため、それを念頭に置いて新しい財政健全化計画を作らなければならない。これまでの財政健全化計画は財政危機を前面に出したもので、市民に我慢を強いるものだった。これからの計画は、新しいことを実現するためにはどうしたらいいかと考える計画となる。しっかりプラン作りをしていきたい。策定期間については、令和5年度か6年度にスタート出来れば良いが、今はまだ検討中。

「令和3年度決算の状況」について

《記者からの質問》

令和3年度の市税収入の見込みは、厳しく見積もりすぎていたのではないか。また市税収入の増額は一過性のものと見ているのか。

《回答》（市長）

令和3年度の見積もりについてはコロナ禍の影響を考え、厳しめ（税収が減る）に考えていた部分もある。市税の増収については、企業の設備投資の効果が大きい。10年後20年後はわからないが、しばらくは維持できると考えている。

「労災病院の産科の設置」について

《記者からの質問》

財政健全化計画を前倒しで達成したが、一旦断念した労災病院への産科の設置を再び目指すのか。また、新川広域圏内での産科の状況についてはどう考えているのか。

《回答》（市長）

再開したい気持ちはあるが、産科をとりまく状況が以前よりさらに厳しくなった。いくら報酬を上げてでも医師を確保できない状況となっている。また医師の働き方改革により、産科設置に求められる体制がさらに厳しくなっている。この難しさが増した状況で、軽々しく再スタートしますとは言えない。魚津でのお産の体制を充実させたいという想いはもっているので、身近な相談が出来たり、緊急の対応ができる環境を整えることについて応援していきたい。

医師の確保が難しい今、広域圏でしっかり環境を整備することも選択肢の一つだと思っている。その場合魚津市はどのように協力できるのかを考えるべき。（この問題は）広域的な視点で考えていかないと産科がどこも残らないという可能性もある。（魚津市内に無いではなく新川広域圏から無くなってしまう） そうなるともっと遠くに行かなければならなくなる。また、（産婦人科だけでなく）総合病院が無くなる可能すらあるのが現実だと思う。

「水族館の建て替え」について

《記者からの質問》

水族館フォーラムが開催されるが、現在の3代目水族館の建物を4代目に建て替える意思があるのか？

《回答》（市長）

財政がさらに健全化して、水族館の建て替えまで考えられると良いが、現実にはその段階ではない。水族館の建て替え方法については、民間の導入など色々なバリエーションが有り得るので、その辺りは市庁舎の建て替えとは異なる。新しい水族館に向けた夢は持っていきたい。

「伝統芸能の担い手不足」について

《記者からの質問》

今年は3年ぶりにたてもん祭りが開催されたが、たてもんボランティアも含め参加された方が少なかったと聞いた。伝統芸能の担い手不足についてどう考えているか。市外・県外に担い手を求める考えはあるか。

《回答》（市長）

今年は（コロナの影響により）特に少なかった。この状況は以前より想定されていたため、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された段階で、将来のたてもん祭りを支える人を増やす活動を始めている。1つは子どもたちと天神地区でたてもんの材料となる木材を植樹して育てる「たてもんの森プロジェクト」。もう一つはまだ余り進んではないが、小学校が統合したことによりこれまで祭りに参加していなかった地区の子どもたちも参加できるようにする試み。市外・県外の方にもぜひ応援してもらいたい。まずは地元の子子どもたちが伝統をつないでいける取り組みを進めていきたい。